

R7.9.30

佐倉市

教育センターだより

Vol.66

令和7年9月30日発行 / 佐倉市教育センター / TEL.043(486)2400 <https://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/kyoikucenter/index.html>

子ども一人一人に寄り添う教育相談支援

佐倉市教育センター所長 塚越 薫

佐倉市教育センターには、毎日多くの相談電話がかかってきます。電話は3回線ありますが、全ての回線がうまってしまいうことも多々あります。令和6年度の相談状況では、佐倉市教育センターへの来所や電話相談などの対応が886件ありました。相談の相手は、市内小中学校の保護者ですが、保護者の相談から小中学校や教育関係機関とも情報を共有し連携を図っております。

相談の内容は、登校渋りや不登校、発達、就学、学校生活に馴染めないなど様々なものです。その中には、「学校や学級に馴染めず登校を渋り困っている」「授業内容が理解できず苦しい」「集団の中では指示が理解できない」というものが多くありました。これらの相談内容を詳しく聞いていくと、環境の変化に敏感な児童生徒が多くいることを感じます。

学年の変わり目や、クラス替え、新しい友だち、新しい先生、席替え、校外学習、学校行事。学校生活の中で子どもたちは日々様々な「環境の変化」に直面しています。こうした環境の変化は、成長の大切な機会である一方で、子どもたちの心に不安や戸惑いをもたらすこともあります。中には、自分の気持ちをうまく伝えることができずに教室を飛び出してしまうたり、「学校に行きたくない」と感じたりする子どももいます。

感受性が豊かで繊細な子、医療的ケアが必要な子、発達に特性がある子など、一人一人が異なる背景を持っています。そうした子どもたちが安心して過ごせるよう、佐倉市教育センターでは学校と連携して、多様な子どもたちに応じた支援を進めています。

○特別支援学級の設置

○個別の教育支援計画に基づいた対応

○校内外の教育支援センターによる、社会的自立に向けた子どもたちへの支援

これらは、子どもたちが安心して学び、成長していくための大切な支援です。「子ども一人一人のペースや特性に合わせた学習支援」「将来の社会的自立を見据えた関わり」「多様な学びの場」は児童生徒一人一人が自分らしく生きるために欠かせないものです。

佐倉市教育センターでは、一人一人の子どもに寄り添い、保護者の思いに耳を傾け、学校と連携しながら、丁寧に事業を推進してまいります。

令和7年度の教育センター事業

学力向上推進事業

- ・佐倉市学習状況調査
- ・好学力学チャレンジプリント作成
- ・全国学力・学習状況調査
- ・教育課題調査研究

教育相談推進事業

- ・ルームさくらの運営
- ・教育電話相談室の運営
- ・心の教育相談員配置
- ・学校教育相談員の活用推進

特別支援教育推進事業

- ・就学指導・就学相談
- ・特別支援教育研修会
- ・特別支援教育支援員配置・看護師配置

インクルーシブ教育システム推進事業

- ・合理的配慮に基づく支援への助言
- ・言語通級指導教室の運営
- ・言語教育研修会

多様な学びの教育相談事業

- ・校内教育支援センターの設置推進
- ・多様な学びの相談員配置

教育センター普及振興事業

- ・センターだよりの発行
- ・センター報告会の開催

道徳教育推進事業

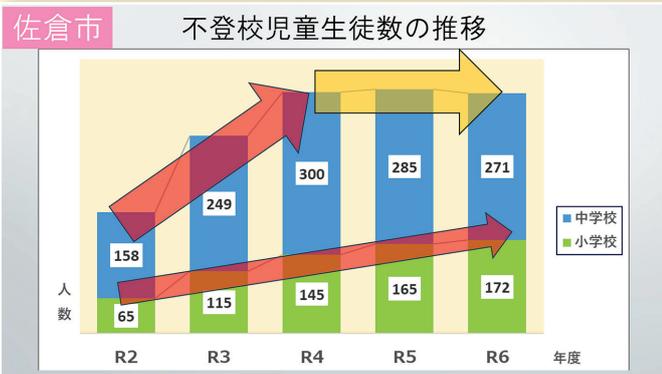
- ・佐倉学道徳副読本
- ・「佐倉の道徳」活用推進



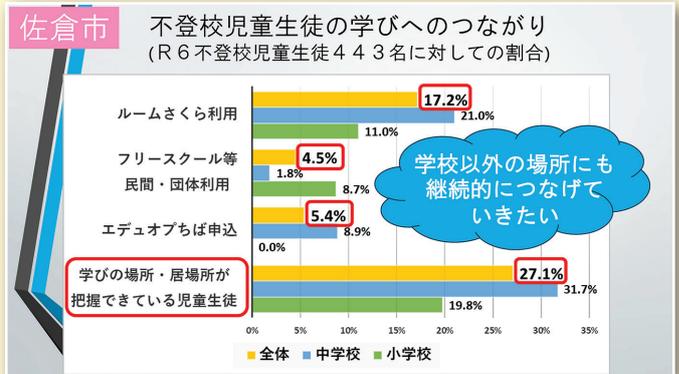
第1提案 佐倉市の多様な学びの支援について

国や佐倉市の小・中学校における不登校児童生徒数の推移や、不登校の要因、学校内外の機関等で専門的な相談・指導等を受けた状況について調査した結果を報告しました。次に、国や県、市、学校が行っている不登校の児童生徒の学びや居場所となる支援について紹介し、それを基に支援方法についてグループ討議を行ってまいりました。最後に、不登校支援で大切な点についてまとめ、報告をしました。

不登校の現状と不登校支援の手だての一例



佐倉市の不登校児童生徒数は、令和2年から4年にかけては増加傾向にありました。しかし、令和4～6年の全体数は横ばいです。ただし、小学校は依然として増加傾向にあります。低年齢での不登校も進行していることが分かります。



令和6年度に学校外で支援を受けた不登校児童生徒は、「ルームさくら」が17.2%、フリースクール等が4.5%、県のオンライン授業配信が5.4%でした。残りの児童生徒も、学校以外の学びや居場所につなげることが、必要となってきます。

佐倉市 校内教育支援センター（全中学校配置）

不登校や集団生活に困難さがある生徒を支援

- 落ち着いた空間 少人数で学べます
- 衝立等が置かれていて 視線が気になりません

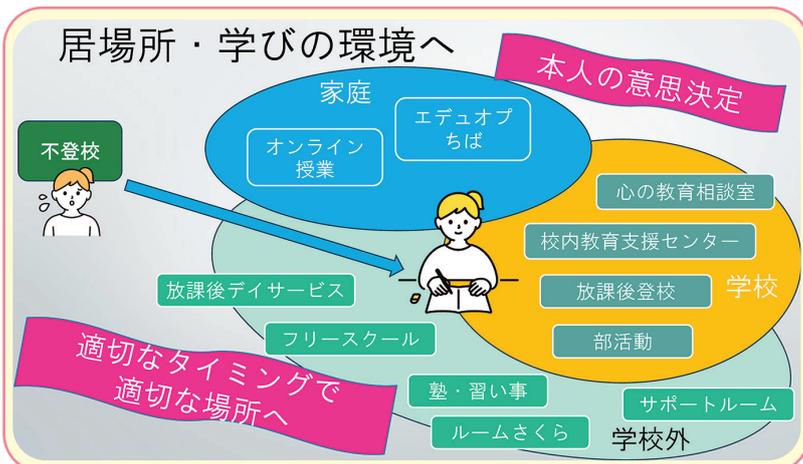
不登校支援として「校内教育支援センター」が今年度より市内の全中学校内に開設されました。空き教室を活用して設置され、教室に入ることが難しい生徒に対して、学校内での居場所を提供し、学びの保障をしています。

また、家庭や学校以外の学びや居場所として、佐倉市では「ルームさくら」を3教室設置しています。各教室にはそれぞれ特徴があり、自分に合った教室を選ぶことができます。ルームさくらに通級した記録は、学校と連携を回り、学校へ出席した扱いとされます。

佐倉市 ルームさくら（学校外の教育支援センター）

不登校や学校生活に困難を抱える児童生徒を支援

- 【志津教室】
- 【佐倉教室】
- 【臼井教室】



まとめ「不登校支援で大切なこと」

不登校支援で大切なことは、「支援をする人が、支援する場所を知ること」、「適切なタイミングで適切な支援を行うということ」、そして「学校が関係を持ち続ける努力をするということ」、それを「チームで支援すること」だと考えます。

不登校に関する考え方は時代と共に変化しています。日々アップデートされていく不登校に関する考え方や、先生方の意見、市民の方々の意見に寄り添いながら、一人でも多くの児童生徒が学びにつながるような支援してまいりたいと思います。

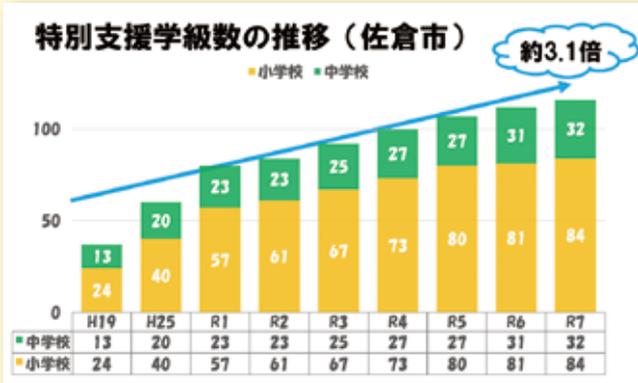
第2提案 佐倉市の特別支援教育 ～現状と今後の対応のあり方～



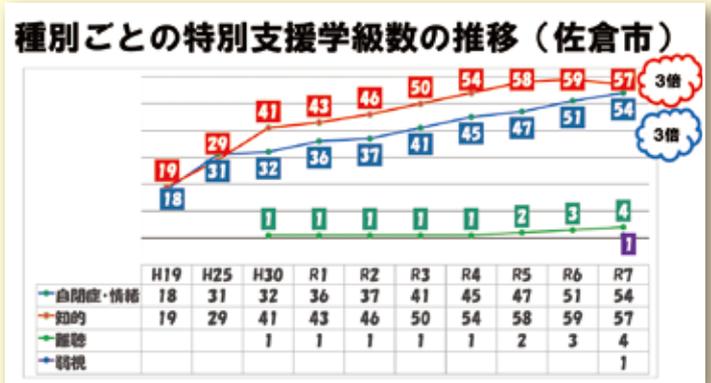
佐倉市の小・中学校における特別支援教育の現状について、特別支援学級数の推移、種別ごとの特別支援学級数の推移、特別支援教育支援員数の推移、医療的ケア児の人数に関する推移、就学相談件数の推移、障害種別ごとの合理的配慮の実例について、調査し報告しました。

また、グループで小1プロブレムや中1ギャップについて話し合う時間を設けて、その原因や支援方法について考えました。

特別支援教育に関する調査結果より ～データで見る佐倉市の特別支援教育の実態～



佐倉市の特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加しています。現在の特別支援教育が開始した平成19年度と比較すると学級数は約3.1倍に増加しています。



自閉症・情緒障害特別支援学級も知的障害特別支援学級も共に3倍に増えていきます。佐倉市では平成30年度に難聴特別支援学級が開設され、令和5年度から学級数が増えています。令和7年度に、弱視特別支援学級が開設されました。



教育センターでの就学相談の件数は、増え続け、ここ最近では80～100件となっています。障害や特性のある幼児が、自分に合った支援を受けながら主体的に学べる環境に就学できるよう相談を行います。

特別支援学級在籍の児童生徒への合理的配慮の例



【考えてみよう 小1プロブレム・中1ギャップ】

何が原因なのか、どう対応したらよいかについて、グループごとに話し合いました。



まとめ「特別支援教育で大切なこと」

児童生徒の不適切な行動は、児童生徒が困っているというメッセージです。

児童・生徒の実態を適切に把握すれば、その子が、どんな支援を求めているかが分かります。様子の観察や家庭及び前担任からの聞き取りも有効です。

教育センターとして、児童生徒の実態や教育的ニーズの把握、保護者との連携を通して、さらなる特別支援教育の充実を図っていきます。



抱えこまずに相談してください いろいろな相談の場・学びの場があります

特別支援教育へのサポート ～適切な支援による着実な成長を～

発達相談

学校（園）や家庭の生活の中でうまくいかないことがある、学習の定着に時間がかかる、発音や聞こえに心配がある等、困り感を抱えた幼児・児童・生徒、その保護者を対象に相談事業を行っています。

学校（園）や家庭の様子から実態を把握し、適切な支援について学校（園）と連携を図り、充実した学びや生活につなげていきます。

就学相談

保護者や学校からの就学に関する相談に応じます。関係機関等と連携しながら、その子にとって適切な学びの場や、教育支援の内容について一緒に考えていきます。

各相談の実施日時・場所・連絡先

- 相談日 月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）
午前10時30分～午後5時00分
- 場 所 佐倉市将門町7（佐倉市立佐倉東小学校内）
- 電 話 486-2400・090-1508-7228



校内教育支援センター ～市内全ての中学校にあります～

クラスに入ることが難しい生徒に対し、個別の学習支援や教育相談を実施しています。生徒が安心して過ごせる環境づくりに努め、居場所としての機能も果たしています。



ルームさくら ～学校の外にも学びの場があります～

何らかの要因によって学校に行っていない小・中学生を対象に、社会的自立を目指すとともに、居場所の提供及び自主性・自発性の育成を支援しています。

○学校の登校日と同様に教室を開いています。

月曜日～金曜日（祝日、年末年始は除く）午前10時～午後3時

○児童生徒の悩みや進路相談、保護者と面談も行っています。

○保護者・学校・ルームさくらが一体となった不登校相談のネットワークづくりを進めています。

新しく 白井教室 ができました！

佐倉市染井野3-3-7
（千代田・染井野ふれあいセンター1階）
電話 080-1586-5911
（第2・4月曜日お休み）



志津教室

佐倉市西志津4-1-2
（西志津ふれあいセンター2階）
電話 489-1002
（第2・4月曜日お休み）

佐倉教室

佐倉市栄町8-7
（佐倉市ヤングプラザ2階）
電話 484-6611

教育電話相談 ～児童生徒、保護者の相談を受け付けます～

経験豊富な相談員が丁寧に対応し、アドバイスします。

より専門的なアドバイスを受けられる相談窓口の紹介もしています。電話 484-6611

